

研究プロジェクト 「歴史」をめぐるコンフリクト—アンデス地域における「過去」と「現在」
代表者：染田秀藤（大阪大学大学院・人間科学研究科・教授）

第6回ワークショップ

資料が語るコンフリクトの諸相

コンフリクトの歴史を究明するとき、鍵となるのが、今日まで伝わる各種資料である。コンフリクトの当事者はもちろん、それを生み出した社会状況が消滅し、後世への波紋すら失われた現在、どの資料をどう分析することで、過去の諸相を再構成できるだろうか。本ワークショップでは、考古学資料（第1部）と文書資料（第2部）を対象に、その具体的手順を、実際の事例研究を通して提示する。

日時：平成21年1月31日（土） 13:30～17:00

場所：国立民族学博物館 2階 第6セミナー室

交通案内 <http://www.minpaku.ac.jp/museum/information/access.html>

聴講自由

◇発表者および演題◇

第1部 佐藤 吉文（総合研究大学院大学・大学院生）

先スペイン期アンデスにおける「伝統」の生成

—自/他認識のコンフリクトとその考古学的アプローチの可能性—

先スペイン期のアンデス文明は、多様な「文化」と「歴史」を有する社会集団間の相互交流によって形成された。これは、その形成が自/他認識をめぐるコンフリクトの所産であったことを意味する。非文字社会に生じた自/他認識のコンフリクトという事象に対して、考古学は如何にアプローチしうるのか。ここでは、「文化接触」と「伝統の創造」という事象のなかに、コンフリクト読解の可能性を模索する。

第2部 齋藤 晃（国立民族学博物館・准教授）

洗礼簿解析

—非叙述史料から何を読みとるか？—

年代記や旅行記、伝記のような叙述史料に比べて、非叙述史料とりわけ無味乾燥なデータが列挙されている記録史料は、研究者から敬遠されがちである。データベースの作成にもデータの分析にも時間がかかるそれらの史料は、しかしながら、使い方によっては予想外の新事実を明らかにしてくれる宝箱にもなりうる。本報告では、18世紀のイエズス会ミッションの洗礼簿を詳細に分析し、コンフリクトの諸相を浮き彫りにする。

問い合わせ先：〒565-8511 吹田市千里万博公園 10-1 国立民族学博物館 齋藤晃研究室

TEL: 06-6878-8354 FAX: 06-6876-2160